

石狩市弁天町36番地で採集された遺物について

Collected relics at 36, Bentencho, Ishikari, Hokkaido, Japan

木戸 奈央子*

Naoko KIDO*

はじめに

石狩市石狩八幡神社の南向にある空地から陶磁器を中心とする遺物が採集された。石狩八幡神社は幕末に創始された箱館八幡宮の末社であり、その付近から採集された遺物は幕末から明治・大正期の石狩の歴史を見る上で重要な資料と考える。本稿では、この資料の詳細と図版等を報告する。

採集場所と近隣の歴史

本資料は石狩市弁天町36番地にて、平成24(2012)年5月14日、平成26(2014)年10月28日、同年11月9日に工藤義衛氏によって採集されたものである。この場所は石狩八幡神社の南向に位置し、同社の所有地であり、現在は空地となっている(図1)。

石狩八幡神社は石狩市弁天町1番地に位置し、



図1. 弁天36採集位置図(国土地理院2万5千分の1地形図に加筆)。

安政5(1858)年に箱館八幡宮の神主菊地重賢が箱館奉行に対し、石狩に八幡宮の末社造立願を提出し認められたことを創始としている(石狩八幡神社, 2008)。文久元(1861)年に仮勧請がなされ、明治5(1872)年に石狩市八幡町に石狩八幡宮として造立し、明治7(1874)年に現在地に移されている。

明治9(1876)年に本町市街で発生した大火の被災状況を描いた『石狩市街[失火焼失区域]図』には、焼け残った家を中心に住人名の記載がある(註[1])。弁天町36番地の位置する辺りは何も記載がないが、あくまでも被災状況を中心とした図であるため、建物等があったかどうかは定かではない。明治39(1906)年発行の『石狩明細地図』(石狩新聞社, 1906)には、土地ごとに所有者の氏名が記されており、弁天町36番地に該当する土地は空白となっている。その南隣には「榎八左エ門」の名が記載されている。榎家は、幕末頃から本町市街で旅籠屋や貸座敷を営んでいた家である(註[2], 駒井, 2002)。明治21(1888)年の石狩八幡神社の拝殿新築や、明治32(1899)年の同社本殿新築に関して、寄付人名簿にその名が記されている(石狩八幡神社, 2008)ほか、明治25(1892)年の石狩郡内各町村別総代人一覧に横町・新町・弁天町の受け持ちとしてその名が挙がっている(石狩町, 1985)。

採集遺物について

今回採集した遺物は陶磁器39点(磁器22点, 陶

* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

器17点)、土器(素焼製品)2点、古銭1点、ガラス製品4点の計46点である(図2、図3)。採集した工藤氏によると、遺物は歩道に近い約1~2mの範囲に散乱しており、それらを表面採集したものである。散布状況は北側が最も量が多く、表土が削られ下層の砂が露出している状態であったという。

採集遺物のうち、口縁部・底部が残っているものを中心に計20点の図化を行った。また、本資料は石狩市弁天町36番地にて採集されたことから、資料名を「弁天36」とした。

(1) 陶磁器

器種ごとに見ていくと、碗・皿類が20点、徳利などの袋物類が12点、鉢、甕などその他の器種が5点、器種不明が2点である。

No.8は松文様の碗、No.12は格子文の皿である。共に幕末から明治にかけての肥前系磁器と考えられる。

No.3、4、7、10のように白磁もしくは無文様の資料が数点あり、採集場所が神社所有の土地であることから、神具として使用された可能性も考えられる。

陶器は多くが徳利であり、越後産の焼酎徳利と考えられる。越後産の焼酎徳利は市内でも多くの出土が見られ、若生C遺跡では出土した徳利類の中で最も多く、石狩浜や石狩川河口に流れ着く陶磁器にも焼酎徳利が多く見られる(木戸・平河内、2013、木戸・石橋、2014)。

資料全体の年代は、幕末までさかのぼる可能性のある資料が数点あるものの、磁器にはコバルトを用いた型紙摺りや銅版転写などの装飾技法が多く見られることから、明治から大正時代が中心であると考えられる。

(2) 古銭

No.42は寛永通宝である。裏面に「文」の一字があり、いわゆる「文銭」と呼ばれる寛文8(1668)年に生産されたものであることがわかる。市内出土の近世銭貨についてはこのNo.42を

含め、これまでに8枚あり、石橋(2014)によって報告されている。

(3) ガラス製品

No.43は化粧品品の瓶で、平尾賛平商店の「レートクリーム」と推定できる。平尾賛平商店は明治11(1878)年創業の化粧品会社で、明治36(1903)年創業の中山太陽堂(現在の株式会社クラブコスメチックス)と並んで「東のレート、西のクラブ」と称されるほどのトップブランドであった(水尾、1998)。「レートクリーム」は明治42(1909)年に発売されている。

レートクリームの瓶について遺跡等からの出土は、東京都汐留I・II遺跡等で報告例がある(桜井、2006)。全体の形状は白色不透明の背の低い円筒形で、胴部に円形と列柱状の装飾が施されている。胴部の円形は4つのものと2つのものがある。本資料は残存部が少ないため、詳細が不明だが、円形は2つと考えられる。平尾賛平商店は昭和29(1954)年で廃業していることから、この資料の年代は明治末から昭和初期と推定できる。

まとめ

今回採集された遺物は幕末のものが数点あるほかは、明治・大正・昭和期のものであり、これは石狩八幡神社が石狩市八幡町から現在地に移された時期や、本町地区の市街地形成時期と合致する。ただし、これらはあくまでも表面採集の資料であり、今後詳細な調査を行い、資料の全体像や本町地区の歴史をより鮮明なものにしていく必要がある。

謝辞：本稿を執筆するにあたり、石狩八幡神社に遺物採集の許可とご協力をいただきました。また、工藤義衛氏に資料の提供とご教示をいただき、松前町教育委員会の佐藤雄生氏に陶磁器の産地・年代についてご教示をいただきました。記して感謝申し上げます。また、日頃よりご協力をいただいております、いしかり砂丘の風資料館職員の皆様に感謝申し上げます。

註

- [1] 「石狩市街[失火焼失区域]図」（北海道立文書館所蔵・簿書5842（24），「石狩町，焼失ノ件」）
- [2] 「開拓使石狩国石狩郡各町村戸籍抄録」（北海道立文書館所蔵・B55-3/793）

引用文献

- 石橋孝夫，2014. 石狩浜漂着物考古学ノート1 石狩浜の漂着遺物とその履歴. いしかり砂丘の風資料館紀要，4：41-54.
- 石狩八幡神社，2008. 石狩八幡神社御創祀百四十年記念事業 石狩八幡神社史一 鮭のまちと共に百四十年一. 石狩八幡神社.
- 石狩新聞社，1906. 石狩明細地図. 石狩新聞社.
- 石狩町 編，1985. 石狩町誌中巻I. 石狩町.
- 木戸奈央子・平河内毅，2013. 石狩市若生C遺跡の出土陶磁器について. いしかり砂丘の風資料館紀要，3：1-10.
- 木戸奈央子・石橋孝夫，2014. 石狩浜漂着物考古学ノート2 石狩浜・石狩川河口に漂着した陶磁器. いしかり砂丘の風資料館紀要，4：55-59.
- 駒井秀子編，2002. 町内資料に読む石狩町女性史年表. 石狩市郷土研究会.
- 水尾順一，1998. 化粧品ブランド史. 中央公論社.
- 桜井準也，2006. ガラス瓶の考古学. 六一書房. 73-84.

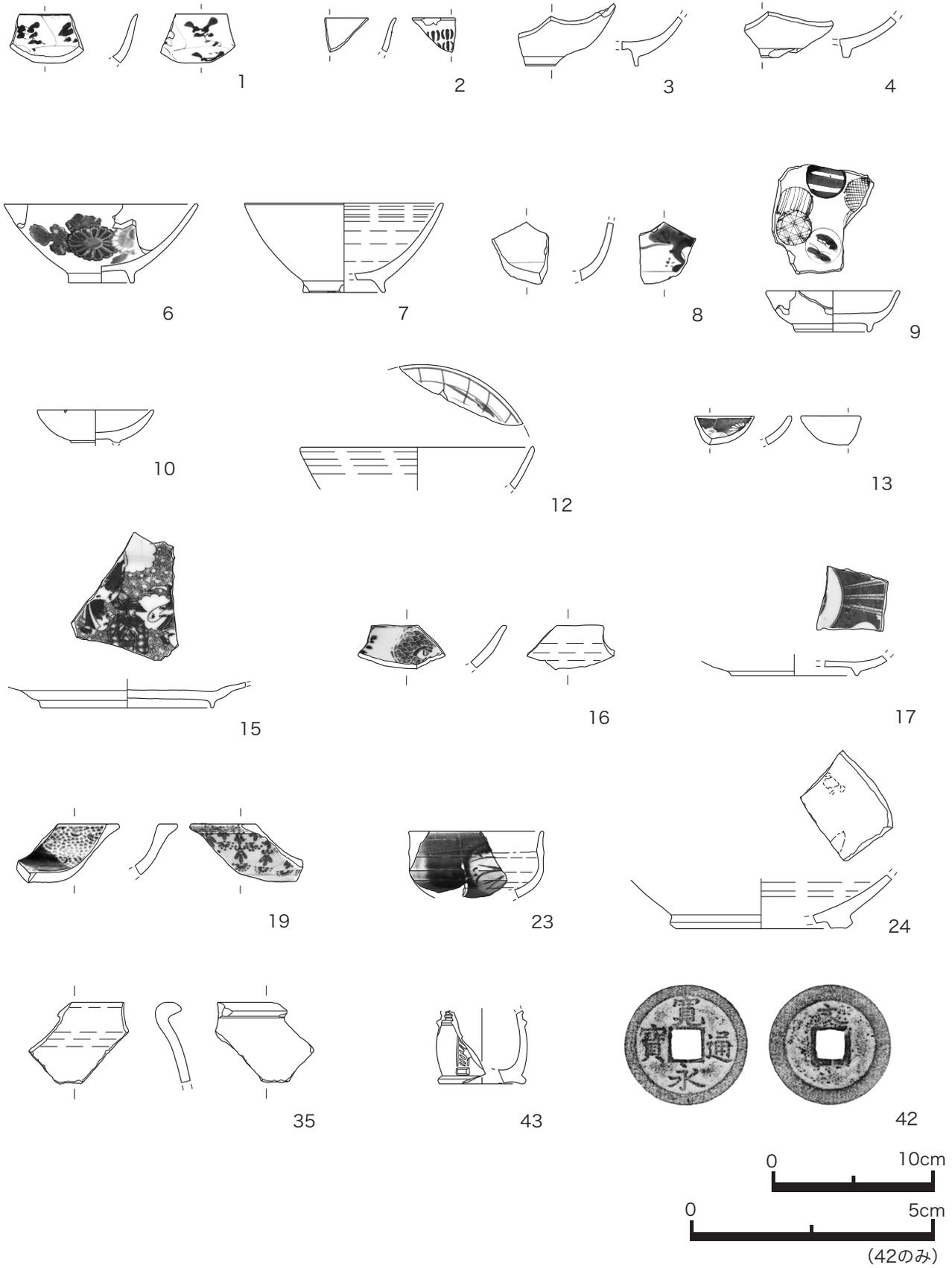


図2. 弁天36採集資料 実測図・拓影図（番号は表1に対応）.



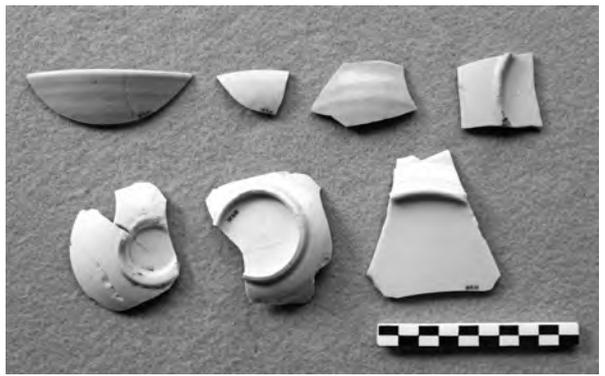
碗 内面



碗 外面



皿 内面



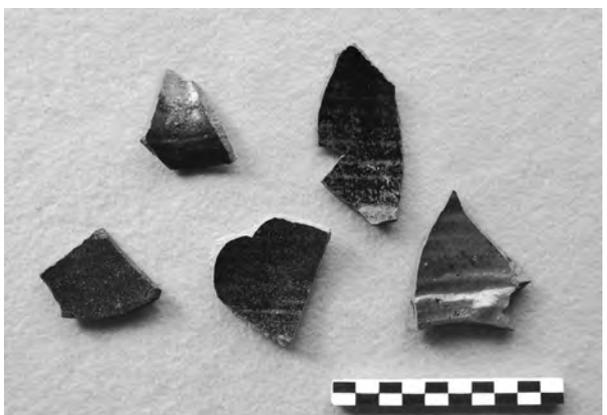
皿 外面



鉢・甕・ガラス製品 内面、古銭 表面



鉢・甕・ガラス製品 外面、古銭 裏面



焼酎徳利 内面



焼酎徳利 外面

図3. 弁天36採集資料 写真図版.

表1. 弁天36採集資料 観察表.

番号	種類	器種	計測値 (cm)			装飾・技法	備考
			口径	底径	器高		
1	磁器	杯				内面・外面共に同じ文様	明治以降
2	磁器	杯				型紙摺り、口紅、稲束文	明治以降、瀬戸・美濃系
3	磁器	碗				白磁、高台が小さい、 高台外面に緑色の変色あり	一部被熱?
4	磁器	碗				底部、見込部分に一部染付が飛んでいる	
5	磁器	碗					幕末?、肥前系?、小破片
6	磁器	碗	11.9	4.0	4.9	銅版転写、菊花	明治中期以降、瀬戸・美濃系
7	磁器	碗				白磁	
8	磁器	碗				松文様	幕末、肥前系
9	磁器	小皿	8.2	4.5	2.6	見込みに輪文、蓮華状口縁	幕末～明治、肥前系?
10	磁器	小皿	7.1			白磁、神具	高台部分欠損
11	磁器	大皿				染付の上に金で描いた跡あり	肥前系?
12	磁器	皿	14.2			格子文	幕末、肥前系
13	磁器	小皿				銅版転写、口紅と花文	明治中期以降、瀬戸・美濃系
14	磁器	皿				青磁	小破片
15	磁器	大皿		10.5		銅版転写に手描き、花文様に踊り子	明治中期以降、瀬戸・美濃系
16	磁器	中皿				三平皿、型紙摺り、 内面青海波に馬文様	明治以降、瀬戸・美濃系
17	磁器	皿		7.7		銅版転写	明治中期以降
18	磁器	灰皿				口縁部にプリントした文様 (市松文と櫛歯文)あり	現代
19	磁器	鉢				型紙摺り、コバルト	明治以降
20	磁器	柶立?				内面無釉	
21	磁器	碗?				濃いコバルトに白抜き丸文様	現代
22	磁器	德利?					胎土に黒いものが多く混じっている
23	陶器	碗	8.2			緑釉に鉄絵	
24	陶器	鉢		10.4		目積み痕、高台内無釉	
25	陶器	德利				頸部から肩部 内面：鉄釉 外面：藁灰釉	幕末～明治期、越後
26	陶器	德利				胴部 内面：鉄釉 外面：土灰釉?	幕末～明治期、越後
27	陶器	德利				胴部から底部 両面：鉄釉	幕末～明治期、越後
28	陶器	德利				内面：鉄釉 外面：藁灰釉	幕末～明治期、越後
29	陶器	德利				胴部 内面：鉄釉 外面：灰釉	幕末～明治期、越後
30	陶器	德利				胴部 内面：鉄釉 外面：灰釉	幕末～明治期、越後
31	陶器	德利				胴部 内面：鉄釉 外面：藁灰釉	越後?、小破片
32	陶器	袋物				内面無釉 底部 外面：乳白色	
33	陶器	德利				内面：鉄釉、外面：灰釉	越後?小破片
34	陶器	袋物				内面無釉、外面：乳白色	小破片
35	陶器	小甕?				両面施釉 口縁部	
36	陶器	鉢・甕類				外面無釉 内面：鉄釉	
37	陶器	鉢・甕類					
38	陶器	不明				外面に染付あり	
39	陶器	不明					神社関係のものか
40	素焼製品	土錘					
41	素焼製品	不明					
42	金属	古銭	径 2.5			裏に「文」	寛永通宝、寛永8 (1668) 鑄造
43	ガラス	化粧品瓶		5.2		胴部に列柱状の文様	レートクリーム (平尾賛平商店)
44	ガラス	瓶				黒色、濁っている	
45	ガラス	板ガラス?				透明、剥離が激しい	
46	ガラス	不明				透明、内面にざらつき、濁りあり	